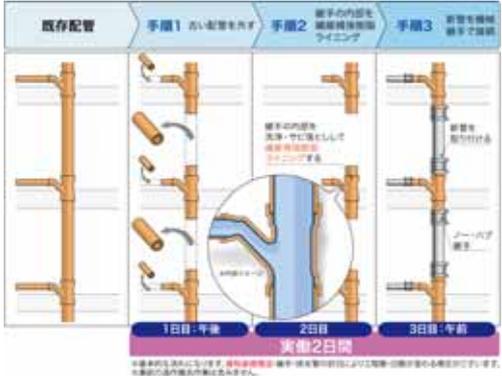
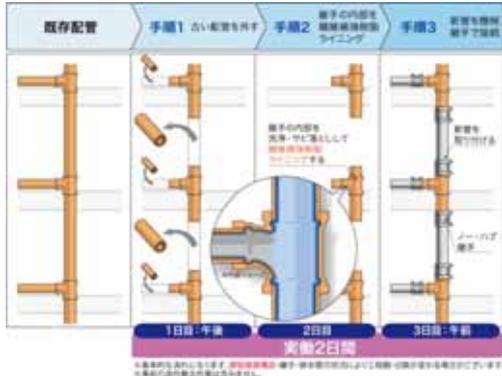


|                   |
|-------------------|
| 最終更新日 H24.10.24   |
| 改修技術 No. 11123102 |

|         |  |
|---------|--|
| 性能分野    | 耐久性・耐用性  |
| 大分類     | 性能の向上  |
| 中分類     | 設備機器・配管仕様のグレードアップ  |
| 技術の名称   | 排水管更生更新併用工法  |
| 改修技術の概要 | <p>・排水管更生更新工法は、老朽化した既存排水管の埋設部を除いた排水継手の上下と枝管を切断し、埋設部の継手を含む管内を研磨・洗浄後、継手形状により以下の工法Aまたは 工法Bの方法を用い更生し、その後切断した立て管を更新する排水<br/>管更生更新併用工法である。</p> <p><u>工法A</u>：ポリエステル芯材筒にエポキシ樹脂を含浸させて、ゴムチューブを用いて圧着し、一体的に内管を形成する工法。</p> <p><u>工法B</u>：継手分岐枝部に熱膨張樹脂管を圧着させ、その立て管部はポリエステル芯材筒にエポキシ樹脂を含浸させたもので更生する工法。</p>  |
|         | <p>・工事期間<br/>一つの排水立て系統すべての住戸の<br/>工事を3日間で行なう。</p> <p>1日目：排水立て管、横枝管を覆っている<br/>造作を解体し、配管を露出させ<br/>る。<br/>配管を切断し、突合せ継手で再<br/>接合する。</p> <p>2日目：排水立て管継手部分を研磨洗浄<br/>し、継手内部を繊維補強樹脂にて<br/>ライニングする。<br/>内面形成を確認後立て管を再接<br/>合する。</p> <p>3日目：排水立て管を新管に取替え、突<br/>合せ継手で接合する。</p> <p>・老朽化が進んだ配管や既存配管の<br/>幅10mmを超える腐食痕には適用が困難</p> <p>・改修後の性能<br/>耐久性向上</p> |



工法 A



工法 B

